

狂言に親しもう

伝統芸能コース

狂言

目的

- 日本の伝統芸能「狂言」。その笑いの世界と、現代にも通じる魅力に触れる。
- 狂言の所作・発声・舞などを体験し、日本の伝統文化を体感する。

効果

- 所作・発声・舞などの体験により、狂言を表現する楽しみを知る。

到達点

- 狂言の基礎的な知識を理解し、日本の伝統芸能に興味・関心をもつ機会を得る。
- 狂言の所作や型にみる、日本の伝統文化の美しさを実感する。



事前学習

狂言の歴史や能舞台のつくり等に関する解説をプリントで学習する。狂言の公演をDVD等で鑑賞する。

ワークショップの流れ（2日間く2コマ/日）

狂言の概要をわかりやすく解説し、講師が狂言の表現手法を実演



狂言ならではの所作・型などの表現手法を演習



腹式呼吸を用い、狂言台詞の発声法を演習



狂言小舞「うさぎ」の所作（動作）を演習



講師の実演を鑑賞（大蔵流狂言「以呂波」等）



質疑応答・感想文作成

事後学習

学んだ小舞「うさぎ」の発表会を開催し、鑑賞しあう。



講師 善竹隆司
ぜんちく たかし

略歴

大蔵流 狂言方
善竹忠一郎の長男で父に師事。故人間国宝・善竹彌五郎の曾孫にあたる。5歳の時、狂言「靱猿」で初舞台。「三番三」「那須語」「釣狐」を披演する。現在、兵庫県立宝塚北高校演劇科講師、能楽協会大阪支部教育特別委員。「兵庫県芸術奨励賞」「大阪文化祭奨励賞」「第3回神戸キワニス文化賞」など多数受賞。



- 白足袋か白ソックスを着用し、扇子（または30cm長の棒）を準備する。
- 会場は、和室か板の間など、狂言独特の摺り足の練習ができる場所を準備する。

…ワークショップを実施して…

講師の感想

日本の伝統芸能「狂言」の基本所作・発声・舞の体験により、自己表現の幅を広げ、コミュニケーション能力に自信をつけることが目標。何事においても大切な、良い姿勢を維持することや、所作や台詞を覚えようとする前向きな考え、そして緊張しながらも、人前で成果を発表する意欲や自信など、それぞれに会得できるものがあったと思う。

先生の感想

普段は接することの少ない「本物」の伝統芸能を間近に見て、体験できたことは、生徒に大きな感動を与えた。自信をもって狂言を演じる姿に、生徒たちの新たな一面を発見し、精神的にもたくましくなったように感じた。古典芸能に興味・関心を持ち、伝統文化を理解するよい機会となった。

生徒の感想

- 初めて生で見た所作と発声は、迫力があって、すごいと思った。
- 動物の鳴き声の表現が、昔と今では全く違うことがわかって面白かった。
- 狂言は難しいと思っていたが、体験してみて、伝統文化の奥深さがわかった。
- 日本の伝統文化を大切にしたいと思った。体験して想像力や集中力がついた。

より発展的な ワークショップを 実施するために

- 国語科・社会科を受け入れ科目とし、古語の音読や日本史も関連づけて学ぶ。
- 礼儀作法・着物の着付けも学ぶ。
- 学校の授業の一環として、狂言鑑賞会、能楽堂・狂言舞台の見学を行う。